

測位基盤検討部会（仮称）における検討について（素案）

1. 背景・目的

本来、測量の基準点の座標は時間によらず一定であるべきであるが、地殻変動の激しい日本では、基準点は地殻変動の影響で様々な方向に移動している。しかしながら、複数年にまたがる工事などで座標が毎年変化すると管理の手間が著しく大きくなることから、測量分野では、国土地理院が定めた元期（がんき；基準となる日^{*}）における基準点の座標を統一的に利用し、その後の地殻変動については測量計算の中で補正する仕組みができています。測量の時期によらず整合した座標を提供するこの仕組み（セミ・ダイナミック補正）は、測量関係者には繰り返し周知されており、十分に理解されていると思われる。

一方、近年、i-Construction や自動運転など、測量以外の分野でも高精度な衛星測位の利活用は拡大していることから、測量分野における座標の管理方法を分かりやすく一般に周知するとともに、拡大する測位分野の利用者の需要を満たす測地基準座標系のあり方を議論することが必要となっている。このため、測地基準座標系と衛星測位の現状を踏まえ、衛星測位の利活用が拡大する中での測地基準座標系のあり方について関係分野の有識者による検討を行い、提言としてまとめていただくことを目的として、部会を設置する。

※西日本では 1997 年 1 月 1 日、東日本では 2011 年 5 月 24 日

2. 検討課題

番号	課題
1	衛星測位の利活用が拡大する中での測地基準座標系のあり方

※検討結果については、部会名で提言書を取りまとめ、測量行政懇談会に提出する。

3. 課題の論点

- (1) 測地基準座標系に対する需要の整理
- (2) 衛星測位に利活用を拡大する際の測地基準座標系の課題の整理
- (3) 衛星測位へのセミ・ダイナミック補正の拡大・高度化の検討
- (4) 衛星測位の利活用が拡大する中での測地基準座標系のあり方